

まず、なぜ私が島前合宿に参加しようと思ったのかというと、私は将来過疎地域の行政の地域振興課の地方公務員となって町の人のために活躍できる人になりたいと考えているので、今回この合宿に参加することによって地方の行政や暮らしについてよく知ることができ将来に生かせるのではないかと思ったからである。また、私は単純に旅をすることが好きであり、普段簡単には行くことができない離島に行くことで、自分の行動範囲が広がり、様々なことに対しての視野が広がるのではないかと考えたからである。

今回私たちが訪れた西ノ島は、島根半島から北東へ約65kmのところにある隠岐諸島の中の一つである。人が住んでる島は西ノ島・知夫里島・中ノ島・島後であり、島後に対して西ノ島・知夫島・中ノ島の3つを合わせて島前とよんでいる。離島という厳しい地理的要因でありながら、美しい景観や恵まれた海洋資源を活用し、漁業・畜産・観光を基幹産業としたまちづくりを進めている。

東京から夜行バスで約12時間、そしてフェリーで2時間半という長旅で、私は正直もう帰りたいという思いがあったが、フェリーに乗っているうちに、美しい海を見ることができこれからの滞在に希望が見えた。

西ノ島に着いた日の夕方、私たちはバスに乗って海へ行った。私は栃木県出身なので海を見ることがめったになく、海を見るだけでも興奮するのに、西ノ島の美しい海を目の当たりにして言葉が出なかった。海の帰り道、次の日交流授業で訪れる予定だった中学生とすれ違い、私たちの先輩が声をかけられていた。それを見て私は、私たちは子供の頃、知らない人はもちろん、知っている地域の人にもなかなか声をかけることができなかったことを思い出し、西ノ島の中学生の明るさ、コミュニケーション能力をととても素晴らしく思った。

2日目は、西ノ島中学校での交流授業だった。島には大学がなく、島の中学生は大学生がどのようなものかという認識がないということであり、私たちが、大学はどのようなところなのか、なぜ大学進学をしようと思ったのか、いままでの人生をどのように歩んできたのかを中学生に話すことになった。私が今まで歩んできた人生は人に話せるような立派なものではなく、事前の練習や打ち合わせでは、中学生に何を話せばよいかわからずとても苦労し、不安だった。しかし、いざ中学校に行き、生徒と1対1で会話する場面になり、私が担当した中学生の男の子と軽く自己紹介をし合うと、とても話しやすく、また私のつまらない人生の話、くだらない人生観を熱心に聞いてくれたことが素直にうれしく、また、彼はスポーツのために本土の高校を受験するらしく、高校のうちから一人暮らしをする予定であることを話してくれた。私自身一人暮らしをしながら大学に通っているので一人暮らしのことについてはいろいろとアドバイスできてうれしかった。中学生のうちから、スポーツ関連のことについての仕事に就きたいというしっかりとした夢があることが素晴らしいと思った。しかし、彼はスポーツ関連以外は興味が持てないと言っていたので、私自身がいろいろなことに首を突っ込んで挑戦し、とても多くのものを手に入れてきたと思っているので、自分が好きな分野以外のことも積極的にチャレンジしてほしいと思った。このことが少しでも彼の心に残ってくれたらいいと思う。私はこの交流授業を終えて、自分が中学生の頃とは比べられないくらいに島の中学生がしっかりと自分の将来について考えていると思った。自分が将来何になりたいのか、そのために島に残るのか、島を出るのかを真剣に考えていてこちらが教えてもらうことも多々あった。ただ、私はなぜ法政大学に進学しようとしたのかと聞かれたときにしっかりと答えることができず、こんな私が中学生に話をしたところで説得力があるのかと申し訳なく思い、もっと信念や意志を強く持ちたいと思った。また、私はいままで高校や中学の頃の部活動で先輩に尊敬されるような先輩ではなく、友達のような扱いを受けていて、そのことに慣れてしまっていたので、少しフレンドリーに話すとすぎてしまい、友達のような接し方をされてしまったことが後悔するべき点だと思っている。

2日目の中学校の後に訪れた道前さんの牧場では、私は島の畜産について何も下調べをせずに行ってしまったので、そこを深く反省している。車で山を登っている途中に牛や馬が道路を横断していたのは本当に驚いた。西ノ島の観光地は本当に絶景ばかりで大いに感動した。このことについても私は西ノ島の観光や産業について何も知らなかったのもっと知りたいと思った。

3日目の午前中、前日の振り返りをした際、先輩方がとても深くまで考え、反省点や改善点を話しているのを見て、1学年しか違わないのに先輩と自分の差を感じ、自分の未熟さ、幼さを実感した。

3日目の夕方～夜にかけて海士町のキンニャモニャ祭りに参加した。この祭りは、海士町の民謡「キンニャモニャ」を踊る町最大のイベントである。1000人規模のパレードや水中花火が行われる。

私の地元にも町のお祭りはあったが、キンニャモニャ祭りは私の地元とは比べられないほど人々が団結していて、子供から大人までが楽しんでいて。私たちも飛び入り参加の枠で参加できることになり、最初は少し緊張したが楽しく参加することができた。地元の人はもちろん、中には外国の方も参加していてそれがとても印象的だった。また、地元の中学生や高校生が学校単位で参加していて、これがこのお祭りが長く受け継がれる理由になっているのではないかと思った。また、普段経験できないようなお祭りだったので、貴重な体験をすることができてとてもうれしかった。

4日目は行政の方からお話をうかがった。先輩方が教育や少子高齢化についての質問をされていて自分との教養の差をあらためて実感した。そんななかで、私はゆるキャラについての質問をしてしまって少し恥ずかしい思いをした。私の中ではとても気になったことで、まじめに質問したのだがもっと西ノ島の行政について深く考えればよかったと思った。また、西ノ島の現在の問題点やその改善のために今後どうしていきたいかを聞いたことがよかった。島ならではの取り組みや、島だからこそ生じる問題点を聞くことができ、今まで知らなかったことを知ることができた。

今回のこの合宿を通して私は島の人の温かさ、人脈の大切さを知ることができた。島の人是一次あっただけで私たちに対してまるで家族のような接し方をしてくれて胸をうたれた。東京ではそのようなことはあまりないと思うので、島の暮らすことの良さと楽しさを感じることができた。また、私自身、今までは知らない人、ましてや知らない大人とは接することが苦手で、あまり交流を持ったりせず、話をするのを避けてきたが、今回のこの合宿で、今まで話をしたことのないような先輩方とご飯を作ったり、行動を共にすることによって人とのコミュニケーションを少し上手にとれるようになったと思う。それに加えて先輩から学校では聞けないような様々なお話を聞くことができて貴重な体験ができた。学校の先輩とのつながりをもっと大切にしようと思った。

また、東京では普段全く関わることのない地域の人たちや、行政の方、お店の人とたくさんコミュニケーションをとることができて、今まで苦手だった人と関わることが少しずつ楽しいと思えるようになり、自分の成長を感じることができた。いい体験ができた。